建築版	施工段階	設備工事:	電気	0	設備工事
			空調	0	ポイントシート
5–1	屋上工事	屋上設備機器設置	衛生	0	(5–1)
			その他	-	(0-1)

建物全体に電気や熱等を供給する主要な設備機器は、地下や屋上にあることが多く、さらに その必要スペースは機器の数倍に及ぶものも多い。また、設置には建物の補強が必要となること もある。また、揚重計画との調整も必要であり、建物の施工計画にも影響が大きい。

(1-4、1-5を併せて参照のこと)

ポイント

■屋上に設置する代表的な設備機器

・キュービクル、空調室外機等があります。

■設置場所・メンテナンススペース

- ・設備機器は概ね重量物なので、梁上部に配置するよう計画します。出来ない場合は構造設計者と協議の上、重量 次第では機器設置面の躯体補強を行います。
- ・設置する設備機器によってメンテナンススペースが定 められていますので、必ず確保するよう配置します。
- ・受水槽は屋内外を問わず6面点検できることが必要です。
- ・設備や電気の床転がし配管がある場合にはスムーズに 歩けるようキャットウォークを建築で設けます。 メンテしやすく、かつ施工しやすい計画をしましょう。

先輩アドバイス

・設置する設備機器の重量や寸法を確認し、搬入方法や搬入ルート(竣工後の改修工事も見据える)をメーカーや保守関係者と調整しておくと、竣工後の保守業務も円滑に進められます。

チェック項目

失敗すると...

- □設備機器のメンテナンススペースは確保できていますか。
- □支持部材の強度は適切ですか。



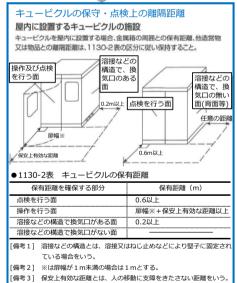
P A C 屋外機群 約**2** t



キュービクル 分割搬入約**2** t



高置水槽 水量による



※高圧受雷設備規程より抜

保守点検の一例(キュービクル廻り)

・設備機器の離隔距離が確保されていないことで、機器の更新・交換が困難になり、建築主の保守費用のコストアップにつながります。また、竣工時では諸官庁検査で指摘を受け、是正しないと検査済書を受理できず、引渡しできないといったトラブルになりかねません。

共通管理項目	合理化 省力化	施工性 向上	品質・ 性能向上	工期短縮 • 圧縮	コスト削減 (材料)	コスト削減(労務)	設備 先行工事	工事区分 見直し	責任所在 明確化
	_	0	0	0	_	_	1	1	1
備考	参考了	考文献:			初版発行	2020年12月			
1 相							改訂	2021호	₹11月